

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		昭和49年		根拠法令・例規等	医療法	
事業開始年度		昭和49年				
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	問担当課(室)	保健課
	中項目	基本施策	02	健やかで生き生きしたまちづくり		
	小項目	施策	06	健康づくり		
事務事業名		05	救急医療事業	問合先	職・氏名	健康係長・白髭由美子
				電話	64-1820	

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	救急医療を必要とする市民
目的(何のために)	救急医療体制の充実により、救急患者に対する医療を確保し、健康で安心・安全な生活の環境を整備する。
行政活動(どのような方法で)	・和気医師会への在宅当番医事業の委託 ・県南東部圏域(5市2町)が共同で整備する二次救急医療体制整備に伴う経費の負担
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	救急医療を必要とする人が、スムーズに適切な医療の確保ができる事が事業の成果といえる。しかし、受診者数の把握はできるが、必要数や医療の質や対応速度等については把握が難しく、問題の指摘が無いことから、現在ほぼ適切な医療提供ができ、成果が得られていると考える。

事業の実績						
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績	
	在宅当番医療機関受診者数	人	2,107	2,384	1,713	
	二次救急医療機関受診者数	人	707	697	636	
実績	直接事業費	千円	3,309	3,282	3,264	
	必要人員人件費	0.10人	885	0.06人	474	0.02人
事業費	事業費計	千円	4,194	3,756	3,440	
財源	国	千円				
	県					
	支					
	出					
金	負担金					
受	益者負担比率	%				
源	総	入				
市	債					
所	他()					
一	般	財	4,194	3,756	3,440	
源	一					

結果指標①	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	救急受診者数	人	2,814	3,081	2,349
結果指標②	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	活動コスト	円	4,194,000	3,756,000	3,440,000
	単位当たりコスト	円	1,490	1,219	1,464

事業の成果						
救急受診者数	成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
		目標値(A)				
		実績値(B)	2814	3081	2349	到達目標年度
		達成率(B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
成果指標設定の考え方・式や説明						
救急医療の必要数や質や対応速度等についての把握が困難であり、適切な成果指標が無い。						

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>		A
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識	地方公共団体が体制整備することが義務付けられており、妥当な事業である。休日・夜間の救急患者に対して、適切な医療の確保を目指している。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明 受診者数は毎年2,000人を超える状況であり、市民のニーズも高いと考える。		
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E>	B
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> 現在の事業を継続してHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	判定理由・課題認識	在宅当番医運営は最も身近な和気医師会に委託しており、委託料は毎年の備前市と和気町の人口比率によって分担を決めている。また、二次救急医療負担金は、県南東部圏域5市2町で応分の負担をしている。従って、コストを勝手に低減することは困難であり、現状が適正と考える。
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> 現在の事業を継続してHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	有効性評価<A~E>	B
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input checked="" type="checkbox"/> 現在の事業を継続してHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	判定理由・課題認識	救急医療が必要な市民に適切な医療を提供している。必要数や医療の質や対応速度等については把握が難しく、問題の指摘が無いことから、有効な事業であると考えられる。

平成21年度の状況		目標値	結果指標量①	2,500	結果指標量②	成果指標量	2,500	
状況	目録	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○					
説明		和気医師会への在宅当番医事業の委託、及び、県南東部圏域5市2町が協定して行う二次救急体制の整備に伴う経費の負担を継続し、休日・夜間の救急体制の整備を図る。						

総合評価		評価区分<A~E>	B
在宅当番医事業を委託している和気医師会において、従来内科・外科の2医療機関での当番体制をとっていたが、外科医院の減少に伴い、今年度より、内科・外科を問わない2医療機関での当番体制へと変更せざるを得ない状況となっている。少子高齢化に伴い、救急医療を必要とする市民は増加すると考えられることから、市民の救急医療に対するニーズを踏まえながら救急体制の整備を図っていくと同時に、適切な救急医療の受け方を広報していく必要があると考えられる。			

平成22年度以降の方向性・内容		拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
方向性			○					
説明		今後も和気医師会・県南東部圏域救急医療体制協議会等との連携を密にし、住民がより受けやすい救急医療の体制の整備を継続する。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果				